

腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の集団発生について

1 概要

出雲保健所管内の腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の発生については、6月27日に発表したところです。発表した患者のうち幼児と同じ社会福祉施設に通所する別の幼児3名の腸管出血性大腸菌（O157）感染症発生届が同保健所に管内医療機関から提出されました。

同保健所が調査したところ、当該社会福祉施設に通所する幼児および職員において、腹痛、下痢、血便等の症状を呈している者が複数名いることがわかりました。現在、感染症と食中毒の両面から継続して調査を行っています。

2 新たに届出された腸管出血性大腸菌（O157）患者

	所在地	性別等	症状	届出日	発症日	現在の状況
①	出雲市在住	男児	腹痛、水様性下痢、血便	6／29	6／26	入院中 回復傾向
②	出雲市在住	女児	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	6／30	6／27	回復傾向
③	出雲市在住	男児	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	6／30	6／24	回復傾向

3 対応状況

- ・患者及び接触者の健康調査（検便等）と行動調査
- ・患者及び有症者等の喫食及び行動調査
- ・施設等の調査
- ・手洗いなど、二次感染予防の指導
- ・家庭のトイレ等の消毒指導

【県民の皆様へ】

腸管出血性大腸菌感染症の発生が続いています。各家庭及び食品調理施設においては、次の事項に注意して下さい。

(1) 手洗いの励行：人から人への感染を防ぐためには、手洗いが最も大切です。

トイレの後や調理前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

(2) 家庭において、食肉やレバー等の内臓は十分に加熱して食べましょう。飲食店での牛生レバーの提供は禁止されています。

(3) 焼肉をするときは、生肉用の箸と取り箸を使い分けましょう。

(4) 食品を扱う際の注意：中心部まで、75℃1分間以上の十分な加熱をするとともに、調理した食品はすぐ食べるようにしましょう。

また、腸管出血性大腸菌に感染した場合、重症化させないことが大切です。

腹痛、下痢、血便等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

【参考】県内の腸管出血性大腸菌感染症患者及び無症状病原体保有者の発生状況

発生年	血清型			
	O157	O26	その他	合計
2019年	3	2(1)	3	8(1)
2020年	9(3)	0	3(1)	12(4)
2021年	6(2)	0	7(6)	13(8)
2022年	18(7)	1	1	20(7)
2023年	*10	1	3(1)	14(1)

*本件の3名を含みます。()は無症状病原体保有者を再掲

プライバシーを尊重した対応をお願いします。